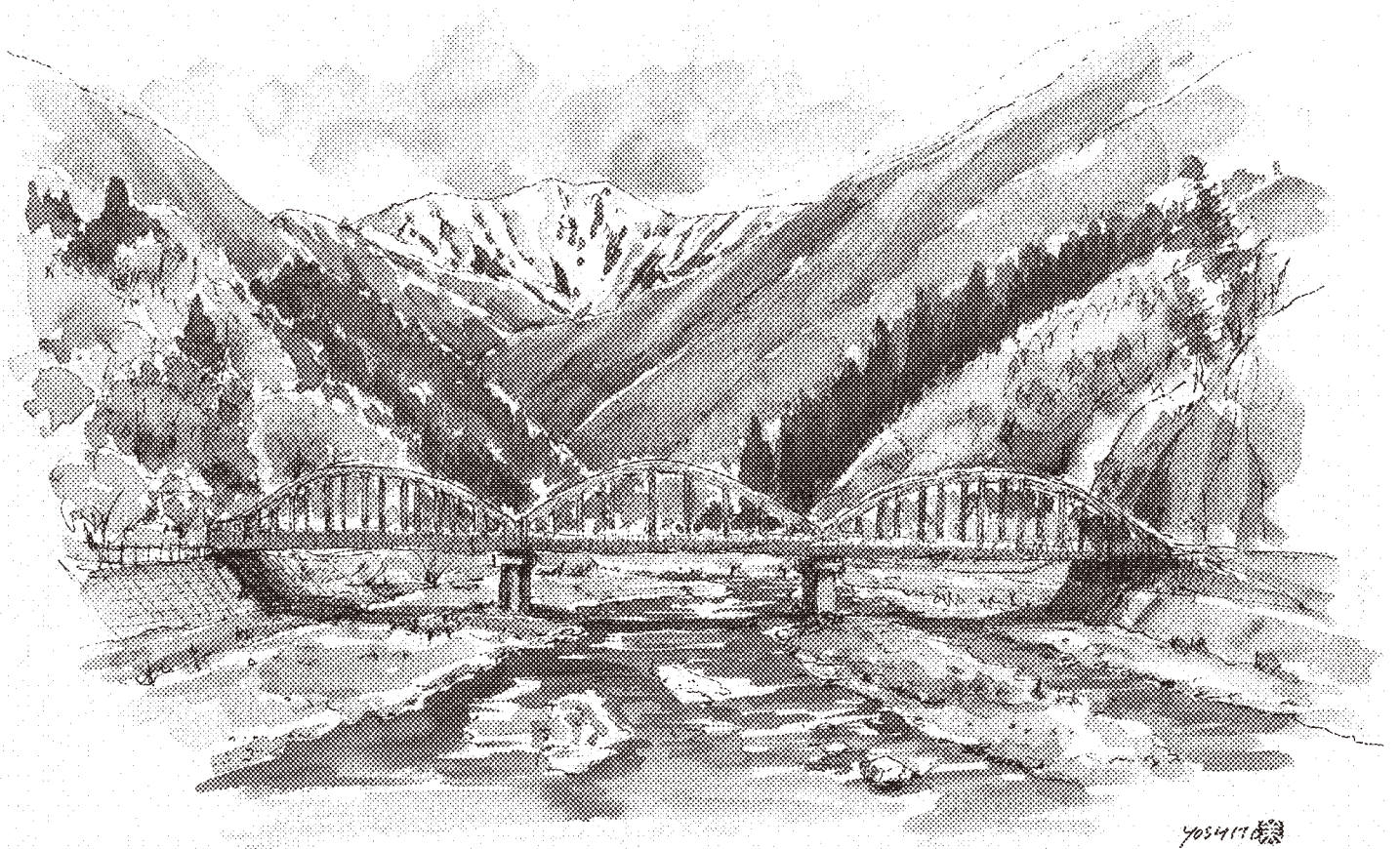




片桐美登「伊那谷遺産」原画展

信州大学農学部 食と緑の科学資料館 日本ジオパーク南アルプス大会 連動企画

伊那谷には美しくも厳しい自然風土の中で、土木のものづくりを工夫して生活を営んできた先人の足跡が数多く残っています。そうした足跡に光を当て、活用することで防災教育や地域振興に役立て、効果的に後世に引き継いでいこうと、国土交通省天竜川上流河川事務所のプロジェクトで「人と暮らしの伊那谷遺産」が選定されています。

これら選定された伊那谷遺産を通じて、今を見つめ、自然災害の歴史や、過去に伊那谷で行われた土木事業と人々の暮らしを振り返る新聞連載が『長野

日報』でありました。このギャラリー展は、そこに掲載された水彩画の原画を集めたものです。

作者の片桐美登さんは駒ヶ根市在住で、市社会福祉協議会の事務局次長です。水彩画が趣味で、公民館などの水彩画教室で講師を務めています。

先人の足跡は橋、井筋、堤、災害遺構とさまざまですが、作者が現地を実際に訪ね、周辺を歩き、昔の人たちの思いを感じたままに描いています。美しさの中に人々の暮らしが見える伊那谷遺産の風景をお楽しみください。
(共催：長野日报社)

期 間 10月10日(金)まで

会 場 信州大学農学部
食と緑の科学資料館「ゆりの木」
(農学部 正門を入って右側)

開館日 土日・祝祭日を除く平日

時 間 午前10時～午後4時

入館料 無料

